

カボチャ(野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(日数)	使用回数	べと病	疫病	菌核病	炭疽病	苗立枯病	つる枯病	うどんこ病	白斑病	軟腐細菌病	果実斑点細菌病
ハツパ乳	NC		-	-							◎			
Zボルドー水	M1		-	-									◎	◎
イオウFL	M2		*b	-							◎			
マスタピース水	NC		1	-									◎	
トップジンM水㊟	1		1	5								◎		
ベンレート水㊿	1		1	3								◎		
アフェットFL	7		1	3						◎	◎			
ストロビーFL	11		1	3	◎						◎			
ライメイFL	21		1	4	◎	◎								
ランマンFL	21		1	3	◎	◎								
フルピカFL	9		1	4							◎			
スミレックス水	2		14	3			◎							
サルバトールME液	3		1	3							露			
スコア顆水	3		3	3							◎			
トリフミン水	3		1	5							◎			
ラリー水	3		1	3							◎			
ポリオキシソールA L溶	19		7	3						◎	◎			
アリエッティ水	P7		1	3	◎	◎								
キノンドー水40	M1		7	3	◎			◎						
サンヨール乳	M1		1	4							◎			
ジマンダイセン水	M3		21	2	◎	◎		◎		◎				
ベンコゼブ水	M3		21	2	◎	◎								
オーソサイド水80	M4		*a 14	5	◎			◎						
ダコニール1000FL	M5		7	3	◎						◎	◎		
バルクートFL	M7		7	4							◎			
モレスタン水	M10		3	3							◎			

カボチャ (野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(日数)	使用回数	べと病	疫病	菌核病	炭疽病	苗立枯病	つる枯病	うどんこ病	白斑病	軟腐細菌病	果実斑点細菌病
リドミルゴールドMZ顆水	4・M3		30	2	⊙	⊙								
フォリオゴールドFL	4・M5		7	3	⊙	⊙								
シグナムWDG	7・11		1	3						⊙	⊙			
ベジセイバーFL	7・M5		7	3	⊙					⊙	⊙	⊙		
アミスターオプティFL	11・M5		7	3	⊙	⊙					⊙			
ショウチノスケFL	9・U13		1	2							⊙			
テーク水	3・M3		21	2	⊙	⊙					⊙			
フェスティバルC水	40・M1		3	3	⊙	⊙								
カンパネラ水 ベネセット水	40・M3		21	2	⊙	⊙								
カーニバル水	40・M5		7	3	⊙						⊙			
プロポーズ顆水	40・M5		7	3	⊙	⊙					⊙			
バトファイター顆水	40・27		3	3		⊙								
パンチョTF顆水	U6・3		1	2							⊙			

⊙:チオファネートメチル含有剤 ⊖:ベノミル含有剤 ⊕を使用した場合には同じ作での⊙は使用しないこと。その逆も同様 (種子への処理および塗布処理を除く、詳細はP.856参照)。

*a:播種後～2～3葉期まで *b:発病前～発病初期

露:露地栽培

カ
ボ
チ
ヤ

カボチャ (野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機 構分類 コード	人畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	ア ブ ラ ム シ 類	コ ナ ジ ラ ミ 類	ア ザ ミ ウ マ 類	ハ モ グ リ バ エ 類	カ ボ チ ヤ ミ バ エ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	ネ キ リ ム シ 類	ウ リ ノ メ イ ガ シ	ウ リ ハ ム シ	コ ガ ネ ム シ 類 幼 虫	ケ ラ	ハ ダ ニ 類	ネ コ ブ セ ン チ ユ ウ
スミチオン乳	1B		14	3	◎		◎										
ダイアジノン粒5	1B		*a 21	2 4							◎			◎			
ネマトリンエース粒	1B		*c	1													◎
マラソン乳	1B		1	5	◎							◎				◎	
アグロスリン乳	3A	劇	1	5	◎		◎		◎								
アディオソ乳	3A		1	5	◎								◎				
ロディー乳	3A	劇	3	3	◎												
アドマイヤー1粒	4A		*b	1		◎	◎										
アドマイヤー顆水	4A	劇	*f	2	◎												
アルバリン顆溶	4A		1	2	◎	◎											
スタークル顆溶			*e	1	灌												
アルバリン粒	4A		*b	1	◎	◎											
ダントツ溶	4A		3	3	◎				◎				◎				
ダントツ粒	4A		*b	1	◎												
モスピラン顆溶	4A	劇	1	2	◎				◎			◎	◎				
モスピラン粒	4A		*d	1	◎												
			*b		◎												
ディアナSC	5		1	2					◎								
アフアーム乳	6		1	2			◎										
コルト顆水	9B		1	3	◎	◎											
ニッソラン水	10A		1	2													◎
コテツFL	13	劇	1	2			日										
カスケード乳	15		1	3				ト									
トリガード液	17		1	3				◎									
カネマイトFL	20B		7	1													◎
サンマイトFL	21A	劇	3	2		◎											
モベントFL	23		7	3	◎	◎											◎
フェニックス顆水	28		1	2					◎								
ベネビアOD	28		1	3				◎	◎								
ウララDF	29		7	2	◎												

*a: 播種時又は定植時 *b: 定植時 *c: 定植前 *d: 播種時
 *e: 定植前日～定植時 *f: 収穫前日まで (但し露地栽培については着果後から)
 日: 日本かぼちやにミナミキイロアザミウマでの登録 ト: トマトハモグリバエ
 灌: セル成型育苗トレイ又はペーパーポットに灌注処理する。

カ
ボ
チ
ヤ

カボチャ (野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
べと病	苗床期 ～生育期	・次の薬剤のいずれかを散布する。 アミスターオブティフロアブル 1000倍 アリエッティ水和剤 400～800倍 ジマンダイセン水和剤 600倍 ダコニール1000(FL) 1000倍	
疫病	定植前 生育期	・排水不良の圃場での栽培をさける。 ・発生が認められたら次の薬剤のいずれかを散布する。 アリエッティ水和剤 400～800倍 ジマンダイセン水和剤 600倍	
うどんこ病	生育期	・発生が認められたら次の薬剤のいずれかを散布する。 イオウフロアブル 500倍 ダコニール1000(FL) 1000倍 トリフミン水和剤● 3000～5000倍 フルピカフロアブル 2000～3000倍	●耐性菌を生じやすいので連用しない。
モザイク病	生育期	・アブラムシ類を防除する。	
アブラムシ類	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アディオソ乳剤 2000～3000倍 モスピラン顆粒水溶剤 2000～4000倍	
コナジラミ類	定植時 生育期	・次の薬剤を植穴に施用し、土とよく混ぜる。 アドマイヤー1粒剤 2g/株 ・発生を見たら次の薬剤を散布する。 サンマイトフロアブル 1000～1500倍	
ウリハムシ	生育期	・成虫の発生を見たら、次の薬剤のいずれかを散布する。 マラソン乳剤 1000倍 モスピラン顆粒水溶剤 4000倍	
ネコブセンチュウ	播種前 定植前	・床土は消毒する(土壤消毒の項参照)。 1. 作付予定地で、前作物に寄生があったところでは土壤消毒する(土壤消毒の項参照)。 2. 次の薬剤を施用し、土とよく混ぜる。 ネマトリンエース粒剤 20kg/10 a	